



づき、該当する情報やファイルを検索し削除する。キーワードは、個人情報だけでなく、システム管理者等が任意に設定した情報、例えば商品名や設計図、提案書などの用語等、複数のキーワードを合わせての検索が可能。例えば不適切な用語を瞬時に検索することも可能で、アイデア次第で利用方法が広がる。

### ②削除ソフトの配布方法

ネットワーク経由で削除ソフト（暗号化した検索条件リストと検索ソフト）を提供するので、個人の操作が非常に簡単になる。配布方法は、サーバにアクセスして受領する方法と、システム管理者がメール添付により対象者へ一斉配布する方法の2通りあり、組織形態に合わせ効率的な配布が行える。

### ③実施証明書による管理

チェック実施済みの端末から実施証明書を自動生成し、暗号化して自治体・企業もしくはシステム管理者へ送信できる。従って管理者は、すべての該当端末のチェック実施結果を、稼動をかけずに把握できる。また簡単な操作で、未実施者にチェック実施を促す督促メールを送付することも可能。

## メールを一括で分割・暗号化する「メール暗号分割システム」

メールを配信する際、宛先の「TO」「CC」欄に取引先や顧客のメールアドレスを列挙したため、配信された全員に対して取引先や顧客のメールアドレスが明らかになるといふ事故が増えている。また、メール

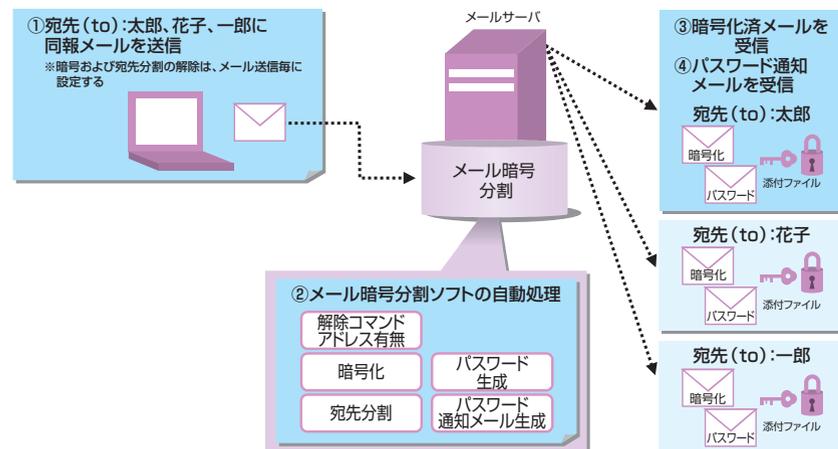


図2 メール暗号分割システムの概要

の誤送信のために添付ファイルが第三者に読まれたり、外部に流出したりするトラブルも発生している。

このようなメール送信に起因する情報漏洩対策として、プライバシーを考えた分割メール送信や、ファイルへのパスワード設定などが行われているが、送信者側に手間と、手作業ゆえの誤操作の可能性も残った課題があった。

そこでNTT東日本は、メールアドレスの設定やファイルの暗号化を自動的に一括で行い、手軽に情報漏洩のリスクを軽減することが可能な「メール暗号分割システム」を提供している。本システムは電子メールの自動宛先分割機能と添付ファイルの自動暗号化機能を備えている（図2参照）。

自動宛先分割機能により、社外の複数の宛先にメールを送信すると、送信側メールサーバが自動的に社外メールアドレスを認識するので、社外アドレスに対しては個別にメールを送信できる。社外の受信者が受け取るメールには、受信者本人のアドレス以外には社外のメールアドレス

は表示されないため、アドレス漏洩の危険性を低減できる。

また、添付ファイルの自動暗号化機能により、電子メールの送信時に、社内宛・社外宛を問わず、メールサーバが添付ファイルを自動的に暗号化する（暗号化方式は純国産暗号「Camellia」を用いたNTTソフトウェアの「CipherCraft」を使用）。暗号化の際には、同時に復号のためのパスワードを生成し、添付ファイルとは別のメールで送信する。パスワードを記載したメールは、サーバの設定により、添付ファイルの受信者に送ることも送信者に送り返すことも可能である。企業のメールサーバ内でファイルの暗号化によるセキュリティ対策を実施するので、エラーの発生を防止し、情報漏洩のリスク軽減に極めて有効である。

### お問い合わせ先

東日本電信電話(株)  
ビジネスユーザ事業推進本部  
ソリューションエンジニアリング部  
TEL : 03-3830-9179  
E-mail : gisen3g@ml.bch.east.ntt.co.jp